



自作「風に託して」の前で受賞の喜びを語る上野さん

“生と死”をテーマに

子供の像、長男常にモデル

日本画を制作してきて平成七年に道展会員となった上野さんは現在、釧路東高校の美術教諭を勤めている。美術の先生を目指して、道南・七飯町の七飯教育大学札幌校で美術を専攻したが、当初は油絵専門だった。「隣の研究室が日本画だったので、ちよいちよ

い首を突っ込んでいた。一緒に、油絵やデッサンも描いています」。日々が絵との関わりの中で進んできたと言える。

上野さんは小樽生まれで

教員の方は昭和五十九年

日本画

上野 秀実さん(三八)

(釧路町雁来五の三二)

の像は小学校四年の長男がいつもモデルとなってきた。

「生まれてきた時から接してきた自分の子供が、生きて成長していくということの意味を探ってみたい。自分に一番近い我が子の営みは、借り物ではないものという気がします」

出品し平成三年に日本画で新人賞を、翌年に佳作賞、同五年に会友、さらに翌年には会友賞を受賞して平成七年に会員推挙と、トント

幾子夫人も同じ日本画を描き道展会友。「一番厳しい批評家。自分の制作は学校が多い」と言う上野さん「受賞は突然の話なのでビックリしてますが、釧路が好きで転勤してきた、その地元

上野さんは「道展で受賞し始めた頃から“生と死”をテーマに描いてきた」という。作品に登場する子供

感激を深くしている。